

人と手をつなぐこと

白河市立白河第二中学校 3年 板橋 愛佳

「人権」と言われた時、みなさんはどのように考えますか。「人が持つ権利」このように考えるのではないだろうか。私もそのように考える。じゃあ、その権利って何なんだろう。ここまで聞かれると答えられない。けど、簡単に答えられた子がいた。それは私の弟だ。

ある日の夜、私達家族は食卓を囲っていた。

「今日ね、人権について先生が来てくれて教えてもらったんだ。」
弟がそう言った。とても楽しそうに話していた。父や母は特に興味を持っていなかった。しかし、まだ年長の一番下の弟は興味津々だった。

「人権ってどういうこと。」

まだ年長だから知るはずがない。小学生の弟は、学んできたことを分かりやすく説明しようとしていた。けど、うまく言葉がまとめられず悩んでいた。

「今日お話沢山聞いたけれど、よく分からなかったんだ。人権って難しいね。」

「お姉ちゃんなら分かるでしょ？中学生なんだし。教えてよ。」

急に話を振られてびっくりした。確かに、小中と人権の話は沢山聞いてきた。でも、いまいち分かっていない。人が持つ権利って何だろうと毎回思ってしまう。だから、二人に上手く説明できなかった。とりあえず、学んできた知識を全て言ったが、弟達はしっくりきているように感じなかった。父や母にも聞いた。しかし、「人が持つ権利のこと」これだけで何も分からなかった。大人も中学生も小学生も分からなかった。こんなにも「人権」って難しい言葉なんだなと思った。家族みんなしばらくの間考えていた。すると一番下の弟が言った。「人権ってみんな一緒ってことかな。世界中の人が手をつなげるってことじゃない？」

幼稚園児らしい答えにみんな微笑んでいた。

「我が家ではそういうことにしよう。」

父がそう言って、別の話に切り変わった。私もその時は変えるのをやめた。

ベットに入って、もう寝る準備ができた時、私はもう一度人権について考えた。弟は「世界中の人が手をつなげること」だと言った。みんな一緒だからつなげるっていったのだろうか。手をつなげない人なんていない。つなぎたくてもつなげない・つなげてくれない人が世界中にいるのかもしれない。「つな

がせてくれない」って人権侵害ではないのだろうか。誰かに何かされているのではないか。それは学徒達の中でいう「いじめ」なのではないか。私はいじめについて考えた。

私の担任の先生は「いじめは絶対に許さない」と一年生の頃から私達にずっと言っている。そのおかげで私達の学年では特に大きないじめは無い。けれど、「これって大丈夫なのか」と思う場面がある。軽いノリなのかもしれないが、私には軽いいじめに見えてしまう。注意しないといけないのは分かっているのになぜか注意することができない。周りが言わないと相手はいじめてることに気づかないかもしれないのに、どうしても声を出すことができない。それはなぜなのか自分で分かっている。人に嫌われることを恐れているからだ。注意して嫌われたらどうしようと思ってしまう。情けなくなる。こうやって、手をつなげなくなる人が増えていくのだろう。それは良くないことだと思った。

次の日、学校に行くと教室で一人の男の子をからかっていた。男の子は嫌そうな顔はしていなかったけれど、私は良くないと判断した。昨日考えたことを頭に思いうかべ、口に出した。

「ストップストップ。その辺でおしまい。」

笑顔で言った。そしたら、周りのみんなは怒った様子も無く席に戻った。私はこの時、注意の仕方を分かった気がした。全員が嫌な思いをしない方法。全員が手をつなげる方法。自分に自信が持てた気がした。うれしかった。

「人権」って何だろうと考えると、私はまさに世界中の誰もが、誰とでも手をつなげることだと思う。みんなに平等な権利があって、誰一人はぶかれるべきではない。もし、他人の妨害によって手をつなげないのであれば、今すぐにその問題を解決するべきだ。いじめ・虐待・パワハラなど、沢山の問題は色々な所にある。自分に何かできるわけでは無い。けれど、変わってほしいと思うことはできる。だから、ずっと願い続ける。

私は、弟から大きな学びを得た。ずっと分からなかったことを教えてもらった。とても大切なことだった。考え方は正しく無いのかもしれないが、今の私が思うには、人権というのにすごくあてはまる。これからも、この考えを大切に生きていきたい。